

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

## 平成 27 年度～令和 1 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」 研究成果報告書概要

1 学校法人名 大乘淑徳学園2 大学名 淑徳大学3 研究組織名 アジア仏教社会福祉学術交流センター4 プロジェクト所在地 千葉県千葉市中央区大巖寺町 2005 研究プロジェクト名 アジアのソーシャルワークにおける仏教の可能性に関する総合的研究6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
藤森 雄介	アジア国際社会福祉研究所	教授

8 プロジェクト参加研究者数 24 名9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
秋元 樹	淑徳大学・総合福祉学部・教授	1-1 スリランカにおける SW と仏教に関するリサーチ(テーマ 1 代表)	スリランカにおける現状と課題の明確化
田宮 仁	淑徳大学・総合福祉学部・教授	1-2 仏教の実践理論に関する再検討	仏教 SW 体系化の為の課題の明確化
磯岡 哲也	淑徳大学・コミュニティ政策学部・教授	1-1 韓国における SW と仏教に関するリサーチ	韓国における現状と課題の明確化
山口 光治	淑徳大学・総合福祉学部・教授	1-1 ミャンマーにおける SW と仏教に関するリサーチ	ミャンマーにおける現状と課題の明確化
松園 祐子	淑徳大学・総合福祉学部・教授	1-1 タイにおける SW と仏教に関するリサーチ	タイにおける現状と課題の明確化
渋谷 哲	淑徳大学・総合福祉学部・教授	1-1 ラオスにおける SW と仏教に関するリサーチ	ラオスにおける現状と課題の明確化
稲垣 美加子	淑徳大学・総合福祉学部・教授	1-2 欧米文化圏における SW と仏教に関するリサーチ	欧米文化圏における先行研究の把握

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

小川 博章	淑徳大学・国際コミュニケーション学部・教授	1-2 モンゴルにおける SW と仏教に関するリサーチ	モンゴルにおける現状と課題の明確化
古宇田 亮修	淑徳大学・長谷川仏教文化研究所	1-1 ブータンにおける SW と仏教に関するリサーチ	ブータンにおける現状と課題の明確化
佐藤 成道	淑徳大学・総合福祉研究科・社会福祉学専攻・博士後期課程	1-1 カンボジアにおける SW と仏教に関するリサーチ	カンボジアにおける現状と課題の明確化
藤森 雄介	淑徳大学・アジア国際社会福祉研究所・教授	1-1 他のアジア諸国における SW と仏教に関するリサーチ 2 被災地での各種調査の実施	1-1 アジアにおけるイスラム教の動向の把握 2 被災地からの情報収集
山下 興一郎	淑徳大学・総合福祉学部・准教授	2 社会資源としての宗教(仏教)の可能性に関する事例的研究	社会福祉協議会との協働モデルの提示
齊藤 鉄也	淑徳大学・経営学部・准教授	2 仏教プラットフォームの開発(テーマ 2 代表)	日本における仏教 SW の実践モデルの提示
石川 到覚	大正大学・教授	1-2 SW 概念の再検討 2 仏教社会福祉学説史の整理	1-2 仏教 SW 体系化の為の課題の明確化 2 関連先行研究のリサーチ
稲場 圭信	大阪大学・准教授	2 社会資源としての宗教(仏教)の可能性に関する事例的研究	行政機関との協働モデルの提示
新保 祐光	大正大学 専任講師	1-2 中国における SW と仏教に関するリサーチ 2 被災地での各種調査の分析	1-2 中国における現状と課題の明確化 2 被災地の現状の明確化
吉水 岳彦	大正大学・非常勤講師	1-1 台湾における SW と仏教に関するリサーチ 2 仏教系実践団体の現状リサーチ	1-1 台湾における現状と課題の明確化 2 被災地の現状の明確化
郷堀 ヨゼフ	淑徳大学・アジア国際社会福祉研究所・准教授	1-1 他のアジア諸国における SW と仏教に関するリサーチ	アジアにおけるヒンドゥ教及びキリスト教の動向の把握及び

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

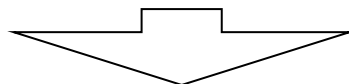
菊池 結	仏教総合研究所・研究員	1-1 ベトナムにおけるソーシャルワークと仏教に関するリサーチ	ベトナムにおける現状と課題の明確化
(共同研究機関等)			

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
1-1 スリランカにおけるSWと仏教に関するリサーチ(テーマ1代表)	淑徳大学・総合福祉学部・教授	秋元 樹	スリランカにおける現状と課題の明確化

(変更の時期:平成 28 年 4 月 1 日)



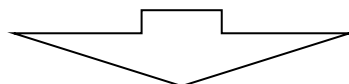
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
淑徳大学・総合福祉学部・教授	淑徳大学・アジア国際社会福祉研究所・所長、教授	秋元 樹	スリランカにおける現状と課題の明確化

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
1-2 仏教の実践理論に関する再検討	淑徳大学・総合福祉学部・教授	田宮 仁	仏教 SW 体系化の為の課題の明確化

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



新

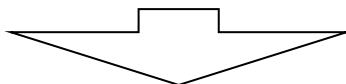
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
淑徳大学・総合福祉学部・教授	淑徳大学・総合福祉学部・非常勤講師	田宮 仁	仏教 SW 体系化の為の課題の明確化

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
1-2 モンゴルにおけるSWと仏教に関するリサーチ	淑徳大学・国際コミュニケーション学部・教授	小川 博章	モンゴルにおける現状と課題の明確化

(変更の時期:平成 30 年 4 月 1 日)



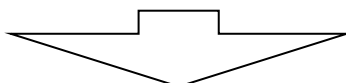
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
淑徳大学・国際コミュニケーション学部・教授	淑徳大学・人文学部・教授	小川 博章	モンゴルにおける現状と課題の明確化

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
1-1 他のアジア諸国におけるSWと仏教に関するリサーチ 2 被災地での各種調査の実施	淑徳大学・国際コミュニケーション学部・准教授	藤森 雄介	1-1 アジアにおけるイスラム教の動向の把握 2 被災地からの情報収集

(変更の時期:平成 28 年 4 月 1 日)



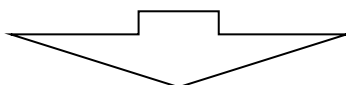
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
淑徳大学・国際コミュニケーション学部・教授	淑徳大学・アジア国際社会福祉研究所・教授	藤森 雄介	1-1 ブータン及びカンボジアにおける現状と課題の明確化 2 全体の統括及び被災地からの情報収集

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
2 仏教プラットフォームの開発(テーマ 2 代表)	淑徳大学・経営学部・准教授	齊藤 鉄也	日本における仏教 SW の実践モデルの提示

(変更の時期:平成 30 年 4 月 1 日)



新

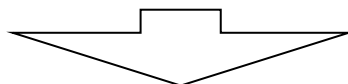
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
淑徳大学・経営学部・准教授	淑徳大学・経営学部・教授	齊藤 鉄也	日本における仏教 SW の実践モデルの提示

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
1-2 SW 概念の再検討 2 仏教社会福祉学説史の整理	大正大学・教授	石川 到覚	1-2 仏教 SW 体系化の 為の課題の明確化 2 関連先行研究のリサーチ

(変更の時期:平成 29 年 4 月 1 日)



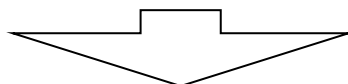
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
大正大学・教授	大正大学・名誉教授	石川 到覚	1-2 仏教 SW 体系化 の為の課題の明確化 2 関連先行研究のリサーチ

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
2 社会資源としての宗教(仏教)の可能性に関する事例的研究	大阪大学・准教授	稲場 圭信	行政機関との協働モデルの提示

(変更の時期:平成 28 年 4 月 1 日)



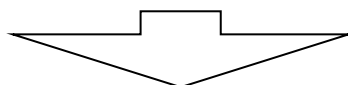
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
大阪大学・准教授	大阪大学大学院・教授	稲場 圭信	行政機関との協働モデルの提示

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
1-2 中国における SW と 仏教に関するリサーチ 2 被災地での各種調査 の分析	大正大学・専任講師	新保 祐光	1-2 中国における現 状と課題の明確化 2 被災地の現状の明 確化

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



新

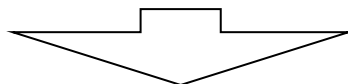
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
大正大学・専任講師	大正大学・准教授	新保 祐光	1-2 中国における現 状と課題の明確化 2 被災地の現状の明 確化

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
1-1 他のアジア諸国における SW と仏教に関するリサーチ	上越教育大学院大学 非常勤講師	郷堀 ヨゼフ	アジアにおけるヒンドゥ教及びキリスト教の動向の把握

(変更の時期:平成 28 年 4 月 1 日)



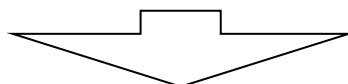
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
上越教育大学院大学非常勤講師	淑徳大学・アジア国際社会福祉研究所・准教授	郷堀 ヨゼフ	1-1 リサーチ統括及び全体のコーディネーター

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
1-1 韓国における SW と仏教に関するリサーチ	淑徳大学・コミュニティ政策学部・教授	磯岡 哲也	韓国における現状と課題の明確化

(変更の時期:平成 30 年 3 月 31 日)



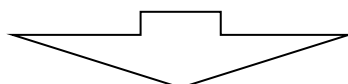
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
削除			

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
1-1 ブータンにおける SW と仏教に関するリサーチ	淑徳大学・長谷川仏教文化研究所	古宇田 亮修	ブータンにおける現状と課題の明確化

(変更の時期:平成 28 年 3 月 31 日)



新

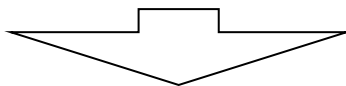
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
削除			

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
1-1 カンボジアにおけるSW と仏教に関するリサーチ	淑徳大学・総合福祉研究科・社会福祉学専攻・博士後期課程	佐藤 成道	カンボジアにおける現状と課題の明確化

(変更の時期:平成 28 年 3 月 31 日)



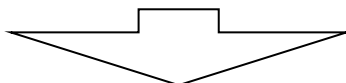
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
削除			

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
1-1 ベトナムにおけるソーシャルワークと仏教に関するリサーチ	仏教総合研究所・研究員	菊池 結	ベトナムにおける現状と課題の明確化

(変更の時期:平成 28 年 10 月 31 日)



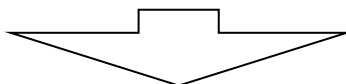
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
削除			

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 28 年 4 月 1 日)



新

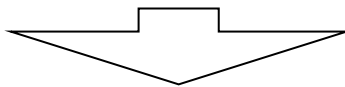
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
追加	淑徳大学・アジア国際社会福祉研究所・助教	松尾 加奈	ベトナムにおける現状と課題の明確化 アジアにおける他宗教(イスラム、ヒンドゥー(ネパール)、キリスト教)の動向

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 28 年 4 月 1 日)



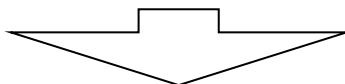
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
追加	淑徳大学・総合福祉学部・教授	西尾 孝司	ラオスにおける現状と課題の明確化

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 28 年 7 月 1 日)



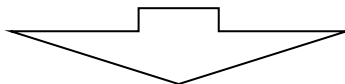
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
追加	東京通信大学・助教	藤田 則貴	韓国における現状と課題の明確化

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 28 年 7 月 1 日)



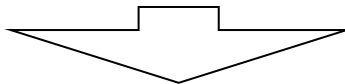
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
追加	清和短期大学・専任講師	劉 光鍾	韓国における現状と課題の明確化

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 28 年 7 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
追加	東京 YMCA 医療福祉専門学校・専任講師	渡邊 義昭	被災地関連調査

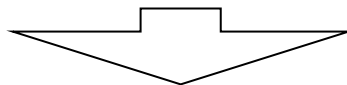


法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 28 年 10 月 1 日)



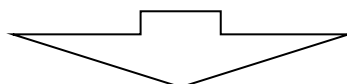
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
追加	専修大学・職員	安藤 徳明	タイにおける現状と課題の明確化

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 28 年 12 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
追加	大正大学・教授	金 潔	1 中国における現状と課題の明確化

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

## 11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

### (1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

#### 【目的・意義の概要】

本研究は、現在、SWに関する定義や現状認識について、一国を超えた国際機関の俎上において新たな揺らぎや問題提起がなされる中、多くの社会問題に対応するソーシャルワーカーが求められる一方で、現在も「専門職」としての確立が十分とは言えない日本を含むアジア地域において、SWの代替的な機能を担ってきた寺院や僧職者の福祉的実践活動を事例として検討することを通じて、SWにおける「価値」や「社会資源」としての仏教の可能性の探究を主たる目的としている。その成果は、これまで行われてこなかった「仏教SW」の体系化につながるものであり、SWとは異なる価値や方法論を、日本を含めたアジア諸国に提示することになると同時に、本来重視されるべき、各国の文化・価値観・歴史・習俗・習慣やその背景に存在する宗教を尊重したSWのあり方やその本質について分析や議論を行っていく、これまでにない切り口でアプローチが行える研究拠点の形成が可能になると考える。

#### 【計画の概要】

当研究プロジェクトは「アジアにおけるソーシャルワークと仏教に関するリサーチ」(研究テーマ1)と「日本の地域社会におけるソーシャルワークと仏教の協働連携モデルの開発」(研究テーマ2)の2つの研究テーマを軸に推進していく。

テーマ1では、アジアにおけるフィールドワークを通して「仏教」の持つ特性の可視化を試み、SW及び仏教の実践理論整理・再検討を行うとともに、本研究に関連する研究の蓄積があると考えられる欧米文化圏の研究機関へもリサーチを行い、先行研究のデータベース化を行う。

研究テーマ2では、東日本大震災に際して「日本仏教」が担った福祉的実践活動を主たる事例として取り上げて、アンケート調査や現地ヒアリング等を行い、その分析から現状や課題の明確化を図り、その課題解決・改善のプロセスを通じて、これからの地域社会における寺院の在り方に関するモデルを提示していく。また同時に、仏教をキーワードに日常的に情報共有を行っていく「プラットフォーム」の構築と運用を行っていくことで、日本における仏教SWの実践モデルをアジア諸国の仏教関係団体及び政府機関に示していく。

### (2) 研究組織

藤森雄介(アジア国際社会福祉研究所・教授、アジア仏教社会福祉学術交流センター長代行、日本仏教社会福祉学会・理事兼事務局長兼東日本大震災対応プロジェクト委員長、公益財団法人全日本仏教会支援検討委員など)を研究代表者とし、テーマを以下の構成員で推進する。

テーマ1:「アジアにおけるソーシャルワークと仏教に関するリサーチ」:(秋元、田宮、磯岡、山口、松園、渋谷、稲垣、小川、小宇田、佐藤、藤森、石川、新保、吉水、郷堀、菊池):アジア諸国におけるSWの展開状況と、その代替機能を担ってきたと考えられる仏教(宗教)の福祉的実践活動に関するリサーチを行い、各国の現状及び課題の明確化を図る。

テーマ2:「日本の地域社会におけるソーシャルワークと仏教の協働連携モデルの開発」:(藤森、山下、斎藤、石川、稲場、新保、吉水):東日本大震災に際して「日本仏教」が担った福祉的実践活動を主たる事例として取り上げて、アンケート調査や現地ヒアリング等を行い、これからの地域社会における寺院の在り方に関するモデルを提示する。

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

## (3) 研究施設・設備等

千葉県千葉市中央区大巖寺町 200 淑徳大学 アジア仏教社会福祉学術交流センター 61 m<sup>2</sup>の施設を利用。

- ・研究プロジェクト用 PC を 4 台(統括データ管理用 1 台、各研究テーマ用 2 台、プレゼン用ノート型 1 台)
- ・事務机、椅子を棚 4 セット、及びコピー機、プリンタ等事務実務用機器 1 式
- ・ミーティング用のテーブル 1 脚、椅子 8 脚

## (4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び\*を付すこと。

## &lt; 現在までの進捗状況及び達成度 &gt;

本研究は、研究開始(平成 27 年 10 月)から現在に至るまで、研究テーマ調書の「年度別の具体的な研究内容」に記した内容から大きく逸脱することなく進んでいるが、経時的には下記のとおり多少遅れを持って進んでいる。この遅れについては、鋭意研究を重ね、全ての研究課題は研究期間内に全て達成可能である。

## &lt; 優れた成果が上がった点 &gt;

## &lt; 特に優れた研究成果 &gt;

(テーマ1)

(平成 27 年度)

・一部のシンポジウムを、淑徳大学総合福祉学部の授業の一環として行い、さらに、日本仏教社会福祉学会年次大会と共同で開催したシンポジウムもあり、学生、学会員に対して話題提供、諸外国の社会福祉、仏教社会の事情について情報提供などを行った。( \* 論文 4~26)

(平成 28 年度)

・各対象国のデータ・情報・資料の確認及び整理ができたため、この成果物を基にしながら、学部・大学院の授業へと還元できるよう、調整を行っている。各対象国の生活や文化を紹介しながら、仏教とソーシャルワークに関する研究成果の一部を提示し、今後社会福祉分野を担う世代にとって考える材料なり刺激なり、平成 30 年度以降、研究成果を教育へ還元させていく予定である。( \* 論文 31~46、48~61)

(平成 29 年度)

・研究活動の成果を学術報告書のほか、研究シリーズの書籍は 5 冊出版された。本事業で取り上げている議論全体の枠組みを示す 0 号、モンゴル版、ベトナム版の英語版 3 冊と、日本語版の 0 号 1 冊及びモンゴル号のモンゴル語版 1 冊それぞれ出版された。また、9 月に中国・深圳で開催された ISSW・APASWE の国際会議や 1 月開催のバングラデシュでの国際シンポジウムなどで研究発表を行う、これまで研究成果を発信した。( \* 図書 1~5)( \* 学会発表 6、9~11)

(テーマ2)

(平成 27 年度)

・『東日本大震災における日本仏教各宗派教団の取り組みに関するアンケート調査 —報告書—』( \* 論文 1)、『被災地寺院の教訓を今後の寺院防災に活かす聞き取り票(アンケート調査) 報告書』( \* 論文 2)、『平成 23 年 3 月 11 日 東日本大震災における仏教系各種団体の震災支援に関するアンケート調査報告書』( \* 論文 3)を発行し、先行して行われていた調査について、より詳細な分析を行った。( \* 論文 29)

(平成 28 年度)

・東日本大震災被災自治体の社会福祉協議会を対象としたアンケート調査「東日本大震災を

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

契機とした地域社会・社会福祉協議会と宗教施設(仏教寺院・神社など)との連携に関する調査(以下、「被災地社協調査」)について、調査計画を立て、調査を開始した。特に質問内容の検討については、宮城県女川町社会福祉協議会の現職の方に協力を頂き、より明確な回答が得られるよう工夫を凝らすことが出来た。また、当初予定していたアンケート調査に加えて、回収時に担当者からのヒアリングを行うことで、実質的な時間はかかってしまうものの、より実情に即した意見を汲み取ることができるとなった。

・「仏教プラットフォーム」の構築にあたっては、より使いやすいシステムやリスク管理等の検討を重ね、まさにこれまでなかった情報共有の場をウェブ上に公開することが出来た。(＊学会発表 3)

(平成 29 年度)

・昨年度より開始した「被災地社協調査」については、当初の対象を拡大して東北三県の被災地域の実質的な全数調査を行い、福島県 16 社協、宮城県 15 社協、岩手県 12 社協、他に参考ヒアリングとして後方支援を行った 3 社協(各県 1ヶ所)、3 県社協及び全社協の担当部の計 50 社協のアンケート調査及びヒアリングを完了することができた。(＊図書 19)

(平成 30 年)

研究テーマ 2 については、昨年度末に調査を完了している平成 28 年 11 月より行ってきた東日本大震災被災自治体の社会福祉協議会を対象としたアンケート調査「東日本大震災を契機とした地域社会・社会福祉協議会と宗教施設(仏教寺院・神社など)との連携に関する調査」(「被災地社協調査」)の一次集計結果を踏まえて、本年度は関心を持って頂ける方々へその成果を積極的に伝えていく年度と捉え、以下の研究発表等を行った。

・9 月 9 日、大谷大学で行われた、日本宗教学会第 77 回学術大会にて、パネル「宗教施設を地域資源とした地域防災のアクションリサーチ」(稲場圭信大阪大学大学院教授代表)の発題者の一人として「東日本大震災被災地から窺える地域における寺院・僧侶への期待」(発表者:藤森雄介)と題する発表を行い、研究所の研究成果の一部を報告。

・9 月 14 日、佛教大学で行われた、浄土宗総合学術大会にて、口頭発表「東日本大震災関連調査から窺える地域社会における寺院、僧侶の在り方」(発表者:藤森雄介)を行い、研究成果の一部を報告した。

・9 月 30 日、身延山大学で行われた、日本仏教社会福祉学会第 53 回学術大会にて、「社会福祉協議会と「宗教系ボランティア団体・宗教施設」との連携について～東日本大震災を契機とした、地域社会・社会福祉協議会と宗教施設(仏教施設・神社等)との連携に関するアンケート調査～」(発表者:○渡邊義昭、藤森雄介、宮坂直樹、大正大学・鷲見宗信、宮城県女川町社会福祉協議会・須田めぐみ、全日本仏教青年会、中村悟眞)を行い、研究成果の一部を報告した。

また、平成 31 年 2 月 4 日、浄土宗総合研究所、大阪大学稲場研究室との合同研修会を開催した。内容は、「災害支援アドバイザー」に関連するものとして、全国社会福祉協議会の園崎秀治氏より「災害ボランティアと社会福祉協議会」と題する講演を頂いた後、参加者による議論を行った。

なお、本調査等を通じて把握できた地域社会の中で継続的に行われている寺院、僧侶の社会的実践活動の「モデル事例」については、当初 10 か所程度を予定していたが、結果として 5 か所程度に絞り込んで継続的な調査を行った。

「仏教プラットフォーム」の運営については、全日本仏教会前事務総長の久喜和裕氏にプログラム研究員として加わってもらい、天台宗、高野山真言宗、真言宗智山派、曹洞宗、臨済宗妙心寺派、日蓮宗、浄土真宗本願寺派、浄土真宗大谷派の各宗の宗務庁を訪問して実務担当者に直接お会いして、また、日本臨床宗教師会や全日本仏教青年会の会合に参加させて頂く形で、「仏教プラットフォーム」の趣旨説明や参加協力をお願い等の広報活動を展開した。

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

(令和 1 年)

研究テーマ2については、最終年度として、まずアンケート調査等については、東日本大震災被災自治体の社会福祉協議会を対象としたアンケート調査「東日本大震災を契機とした地域社会・社会福祉協議会と宗教施設(仏教寺院・神社など)との連携に関する調査」(「被災地社協調査」)についての報告書を、令和 2 年 3 月 11 日付で、刊行することができた。

また、地域社会における寺院、僧侶等の実践のモデル事例については、9 月 11 日に行われた、日本仏教社会福祉学会第 54 回学術大会にて、「東日本大震災を契機とした、寺院の社会的活動について～岩手県釜石市で開催されている韋駄天競走における地域連携の事例から～」(〇渡邊義昭、藤森雄介)の研究発表を行った。その後、同地区及び隣接の大槌町寺院も含めて大震災発生後に結成された「釜石仏教会」に関わる諸活動について、今後も継続的な調査・研究を行っていく足掛かりも得ることができた。

更に、昨年度に引き続いて 6 月 24 日に、浄土宗総合研究所、大阪大学稲場研究室との第 2 回合同研修会を開催した。内容は、「災害支援アドバイザー」に関連するものとして、曹洞宗僧侶の米沢智秀氏より「ボランティア活動から見えた寺院・僧侶の可能性」と題する講演を頂いた後、参加者による議論を行った。共通に関心のあるテーマについて、他の研究機関との協働事業を国内テーマでも実施するという良い経験を得ることができた。

なお、想定外の出来事ではあるが、9 月 9 日未明にかけて発生した千葉県における台風 15 号の被災地域及び被災寺院に対して、淑徳大学を介して、滋賀県浄土宗青年会や長野県諏訪市浄土宗寺院有志の方々より「米一升運動」の一環として支援の申し出を頂き、結果、令和 2 年 8・9 日、千葉県富津市金谷の本覚寺での炊き出し支援と周辺寺院への米一升の配布事業として結実する事ができた。これは、図らずも本研究プロジェクトが目指していた「これからの地域社会における寺院の在り方に関するモデルを提示していく」という事例そのものであり、「支援事業」最終年度という事もあって本活動の詳細な検証は次年度以降の課題となるが、本研究テーマが次年度以降も継続に耐え得るものとして評価できる実践であったと考えている。

「仏教プラットフォーム」の運営については、結局、登録 4 件、承認済(手続中)22 件で残念ながら登録は足踏み状態のまま年度末を迎える事となった。ただこの間、例えば各宗派教団の成果から、7 月 31 日に改めて日蓮宗宗務院より詳細な説明を求められて 7 月 31 日に訪問し、その結果、日蓮宗の関連団体会合の席にお招き頂いて説明の機会を得る等(令和 2 年 1 月 10 日)、関心を持っていただく手ごたえはあった。その点も踏まえ、宗派教団の理解を進める為、加盟団体である浄土宗からの推薦も頂いて、全日本仏教会の賛助会員に淑徳大学アジア国際社会福祉研究所として全日本仏教会の賛助会員として加盟も果たしているの、次年度以降も粘り強く浸透を図っていきたいと考えている。

#### <課題となった点>

テーマ1については、複数の言語を扱う研究プロジェクトであるため、研究成果を纏める際に翻訳や校正作業にかなりの時間や費用を費やしている。翻訳作業における解釈の問題、専門用語の問題、国によって異なる背景や概念などを意識しながら、各地の共同研究者と確認作業を徹底して行っている。また、上述したように対象国によって研究体制や諸事情が異なるため、進展度も異なる。本事業全体の運営と同時に、形成されつつある研究基盤(研究ネットワーク)の今後運営を想定しながら、カウンターパートと密接に連携を取り、各国事情の把握に努めている。必要に応じて、研究支援などを提供しており、すべての対象国での研究活動、執筆活動を円滑に進められるよう努めている。

テーマ2については、アンケート調査、「仏教プラットフォーム」とも研究の方針にブレはないものの、当初の想定よりも時間がかかってしまっており、その結果研究計画に対する進捗に少なくない遅れが生じてしまっている。また、「仏教プラットフォーム」については、関係団体やそ

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

の関係者からは、基本的な考え方やウェブ上での公開に関しては概ね好意的に評価して頂いているものの、実際に登録して頂くまでには至っていないという課題が生じている。今後、アンケート調査の分析、「仏教プラットフォーム」の広報とも共同研究者、協力者、協力団体等に新たに加わって頂き、課題の解決を図っていく。

＜研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見直しを含む。)＞  
 テーマ1の共通言語として英語が使われており、研究成果も英文として出版されるが、同時に、日本語版と対象国現地言語版を予定している。これは、研究者や専門家のみならず、日本、海外、各対象国の実践者及び学生を読者層として考えており、教育研修への還元、実践への還元といった効果が考えられる。また、各対象国の現状を客観的かつ学術的にまとめたことによって、研究対象となった各地の寺院等にとって自らの活動を再認識できると考えらえる。更に、仏教ソーシャルワークを取り上げることにより、ソーシャルワークそのものの議論及び概念にも影響を及ぼすことが考えられ、ソーシャルワークを問い直すきっかけになるといった効果も期待できる。

テーマ 2 については、特に「被災地社協調査」を通じて、当初想定した以上に、各地域の中で寺院や僧侶が「社会資源」として期待されている事が明らかとなったことは、ある意味でうれしい誤算であった。この期待に応えられるようなモデル事例を幾つか提示することが出来れば、地域社会と寺院、僧侶双方に価値のある関係性を見出すことも期待できる。そしてその関係を持続的なものにするために「仏教プラットフォーム」を活かすことができれば、より効果的に本研究の成果を社会に還元できると考えられる。

#### ＜今後の研究方針＞

テーマ1では、まだ調査が完了していない対象国の研究活動を進めると同時に、これまで実施してきた国別プロジェクトとは異なり、国毎ではなく、研究テーマ毎(例: 仏教と政権、仏典、等)で進めていく方針である。これは国別現状把握のみならず、仏教ソーシャルワークへの理解を深め議論をさらに進めるためである。

テーマ 2 については、「被災地社協調査」の分析と報告書の作成と同時に、本調査で把握できた地域社会の中で継続的に行われている寺院、僧侶の社会的実践活動を 5～10ヶ所程度選定し、「モデル事例」として詳細な調査を進めていく。また、「仏教プラットフォーム」については、今後 2 年間で 50 団体(寺院)以上の登録を目指して広報活動を行っていく。

#### ＜自己評価の実施結果と対応状況＞

年 2 回実施されている「アジア国際社会福祉研究所運営委員会」において、本研究事業に関する報告を行い、運営委員からの評価を受けている。また、毎年発行されている『淑徳大学年報』にて、PDCA サイクルに基づいた自己点検・評価を行っている。

#### ＜外部(第三者)評価の実施結果及び対応状況＞

これまで開催してきた国際学術フォーラム、専門家会議等の際して、学外からの出席者、参加者の方々から本研究に関する評価や貴重なご意見、ご助言を頂くことができた。外部の教育研究機関に所属する研究者 4 名に外部評価を依頼して、最終年度に向けた本研究の評価を実施した。

その結果、第三者評価として単純回答項目については次のような結果となった。

① 研究内容についてお聞きます。(該当するものに○を付けてください。)

1. 当研究プロジェクトは、年次計画に沿って実施されていますか。

はい 4    いいえ 0    該当なし 0

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

2. 当研究プロジェクトは、その目的を達成するために、適切な方法を用いて実施されていますか。

はい 4 いいえ 0 該当なし 0

3. 当研究プロジェクトは、その目的を達成するために、適切な体制で実施されていますか。

はい 4 いいえ 0 該当なし 0

4. 当研究プロジェクトにおいて、これまでは十分な成果が得られましたか。

はい 4 いいえ 0 該当なし 0

5. これまでの研究成果の公開方法は適切だと思いますか。

(学術シンポジウムや書籍・報告書等の発行物含む)

はい 4 いいえ 0 該当なし 0

② 研究基盤形成についてお聞きます。(該当するものに○を付けてください。)

1. 支援事業の目的に沿って研究基盤が形成されたと考えますか。

はい 4 いいえ 0 該当なし 0

2. 新たに形成された研究基盤が機能していると考えますか。

はい 3 いいえ 1 該当なし 0

③ 平成 27 年度～令和元年度までの 5 年間にわたって実施された当支援事業全体に対して、総評をお願いします。(A4 版半分～1 枚以内にまとめてください。①と②の質問項目の評価に値する点や課題・改善点・所見にも触れてください。)

【②-2の「いいえ」に関連した意見の抜粋】

「仏教社会的実践活動プラットフォーム」についてはコンテンツの面でも、登録団体数の面でも極めて不十分であり、これまでの課題を踏まえた現実的な対応策を講じることが望まれる。ソーシャルワークと仏教を合む他分野とのつながりを模索することは、ソーシャルワークの可能性を大幅に高めるものと思われ、当研究プロジェクトの成果から学ぶべき点は多いと考える。

上記の意見のように、より深く探求することに対して意見はあったが、そのほかは概ね良好な成果を得られたとの意見をいただいた。

<研究期間終了後の展望>

本事業申請時に具体的に研究活動を行う施設(組織)は、「アジア仏教社会福祉学術交流センター」(以下、同センター、という)であったが、その後、2016年4月、淑徳大学内に「アジア国際社会福祉研究所」(以下、同研究所、という)が新たに設置され、同センターは同研究所内に再配置される事により、より充実した研究支援体制の基で研究活動を行ってきた。

同研究所は恒常的な組織であり、2020年4月1日現在、所長の下、3名の専任研究員(任期無)の体制で、本事業によって形成された研究基盤を継承・発展すべく、研究活動が行われる環境が整っている。2020年度は、当面、本事業を通じて各国の研究者を中心に形成されたアジアの仏教ソーシャルワークネットワークを活かした「実践」と「歴史」をキーワードに仏教ソーシャルワークの教育システムの形成を試みるプロセスを通じて、ソーシャルワークのグローバル定義の中で問われている、「インディグネス(土着)」の問題に取り組むとともに、国内に向けては、地域社会における寺院・僧侶の社会的実践活動を、より全国的な視点に立って収集、分析を行っていきたいと考えている。

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

＜研究成果の副次的効果＞

テーマ1については、「SWにおける仏教の可能性」に関する議論を更に深め国際的に通用する仏教SWの体系化が可能になる。また「仏教」の持つ特性の可視化を試み、SW及び仏教の実践理論の整理・再検討を行い先行研究のデータベース化を行う。

テーマ2については、「被災地社協調査」の集計、分析、報告を行っていくことで、地域社会において、寺院や僧侶が「社会資源」どの程度期待されているのか、客観的なデータに基づいて明らかにすることができる。また、その期待に応える手がかりとして、5～10の関連する「モデル事例」を提示することで、地域社会における寺院・僧侶の更なる社会的実践活動の展開が期待できる。その様な諸活動を後方支援する機能として「仏教プラットフォーム」が活用されることで地域社会と寺院の日常の繋がりの強化、継続が可能になる。この一連の研究成果は、諸外国に対しては日本における仏教ソーシャルワークの現状として発信できる。

・また国内に対しては、日常の延長線上にある災害等の非常時の際の役割として、寺院や僧侶の持つ機能を活かす事に繋がると考えている。

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) ソーシャルワーク                      (2) アジア                                      (3) 仏教  
 (4) 宗教                                      (5) 寺院                                      (6) 震災  
 (7) 僧侶                                      (8) \_\_\_\_\_

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには\*を付すこと。

＜雑誌論文＞

1. \*『東日本大震災における日本仏教各宗派教団の取り組みに関するアンケート調査 — 報告書—』 監修 財団法人 全日本仏教会 日本仏教社会福祉学会 編著 日本仏教社会福祉学会東日本大震災対応プロジェクト委員会 淑徳大学 藤森雄介研究室発行 平成 27 年 10 月 11 日、淑徳大学 藤森雄介研究室
2. \*『被災地寺院の教訓を今後の寺院防災に活かす聞き取り票(アンケート調査) 報告書』 監修 財団法人 全日本仏教会、日本仏教社会福祉学会、仏教 NGO ネットワーク(BNN) 編著 日本仏教社会福祉学会東日本大震災対応プロジェクト委員会 淑徳大学 藤森雄介研究室発行 平成 27 年 10 月 11 日、淑徳大学 藤森雄介研究室
3. \*『平成 23 年 3 月 11 日 東日本大震災における仏教系各種団体の震災支援に関するアンケート調査 報告書』 監修 財団法人 全日本仏教会、日本仏教社会福祉学会、仏教 NGO ネットワーク(BNN)編著 日本仏教社会福祉学会東日本大震災対応プロジェクト委員会 淑徳大学 藤森雄介研究室発行 平成 27 年 10 月 11 日、淑徳大学 藤森雄介研究室
4. \* Akimoto, T., Sakamoto, E., Kikuchi, Y. (2015) Buddhist “Social Work” Activities in Asia. Asian Center for Social Work Research, Shukutoku Uni., 10.2015
5. \* Bobby (2015) The Role of Myanmar Buddhist Monks and Nuns in Social Work. In: Akimoto, T., Sakamoto, E., Kikuchi, Y. (2015) Buddhist “Social Work” Activities in Asia. Asian Center for Social Work Research, Shukutoku Uni., pp.89-108, 10.2015
6. \* Herath, M.D.R., Wickramasinghe, A.(2015) Buddhist “Social Work” Activities in Asia: Sri Lankan Case Study. In: Akimoto, T., Sakamoto, E., Kikuchi, Y. (2015) Buddhist “Social Work” Activities in Asia. Asian Center for Social Work Research, Shukutoku Uni., pp.13-42, 10.2015



法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

7. \* Loan, N.H., Kikuchi, Y. (2015) Social Work Activities by Buddhist Temples and Monks/ Nuns in Vietnam. In: Akimoto, T., Sakamoto, E., Kikuchi, Y. (2015) Buddhist “Social Work” Activities in Asia. Asian Center for Social Work Research, Shukutoku Uni., pp.43-74, 10.2015
8. \* Onopas, S. (2015) Buddhist Social Work Activities in Thailand. In: Akimoto, T., Sakamoto, E., Kikuchi, Y. (2015) Buddhist “Social Work” Activities in Asia. Asian Center for Social Work Research, Shukutoku Uni., pp.75-88, 10.2015
9. \* Sangpo Sherpa, A.K. (2015) Social Welfare in Nepal Conducted by Buddhist Monasteries. In: Akimoto, T., Sakamoto, E., Kikuchi, Y. (2015) Buddhist “Social Work” Activities in Asia. Asian Center for Social Work Research, Shukutoku Uni., pp.109-130, 10.2015
10. \* 秋元樹(監)、郷堀ヨゼフ(編)『仏教“ソーシャルワーク”と西洋専門職ソーシャルワーク 一次の第一歩』淑徳大学 長谷川仏教文化研究所アジア仏教社会福祉学術交流センター、2016年1月
11. \* 秋元樹 (2016)「アジアにおける仏教ソーシャルワークの現状 —五カ国調査の趣旨について」秋元樹(監)、郷堀ヨゼフ(編)『仏教“ソーシャルワーク”と西洋専門職ソーシャルワーク 一次の第一歩』淑徳大学 長谷川仏教文化研究所アジア仏教社会福祉学術交流センター、2016年1月
12. \* Akimoto, T. (2016) The present state of Buddhist “Social Work” Activities in Asia – Introduction. In: Gohori, J. (ed.) Buddhist “Social Work” and Western-rooted Professional Social Work: The next first step. Hasegawa Research Institute for Buddhist Culture, Asian Center for Social Research Exchange, Shukutoku University, pp. 13-14, 1.2016
13. \* Bobby (2016) The Role of Myanmar Buddhist Monks and Nuns in Social Work. In: Gohori, J. (ed.) Buddhist “Social Work” and Western-rooted Professional Social Work: The next first step. Hasegawa Research Institute for Buddhist Culture, Asian Center for Social Research Exchange, Shukutoku University, pp. 19-20, 1.2016
14. \* ボビー(2016)「ミャンマーのソーシャルワークにおける仏教僧侶と尼僧の役割」秋元樹(監)、郷堀ヨゼフ(編)『仏教“ソーシャルワーク”と西洋専門職ソーシャルワーク 一次の第一歩』淑徳大学 長谷川仏教文化研究所アジア仏教社会福祉学術交流センター、2016年1月
15. \* Gohori, J. (ed.) Buddhist “Social Work” and Western-rooted Professional Social Work: The next first step. Hasegawa Research Institute for Buddhist Culture, Asian Center for Social Research Exchange, Shukutoku University, 1.2016
16. \* Herath, M.D.R., Wickramasinghe, A.(2016) Buddhist “Social Work” Activities in Asia; Sri Lankan Case Study. In: Gohori, J. (ed.) Buddhist “Social Work” and Western-rooted Professional Social Work: The next first step. Hasegawa Research Institute for Buddhist Culture, Asian Center for Social Research Exchange, Shukutoku University, pp. 30-36, 1.2016
17. \* ヘラ, M.D.R., ウィカラマシング, A.(2016)「スリランカにおけるソーシャルワーク活動」秋元樹(監)、郷堀ヨゼフ(編)『仏教“ソーシャルワーク”と西洋専門職ソーシャルワーク 一次の第一歩』淑徳大学 長谷川仏教文化研究所アジア仏教社会福祉学術交流センター、2016年1月
18. \* Loan, N.H. (2016) Buddhist social work in Vietnam. In: Gohori, J. (ed.) Buddhist “Social Work” and Western-rooted Professional Social Work: The next first step. Hasegawa Research Institute for Buddhist Culture, Asian Center for Social Research Exchange, Shukutoku University, pp. 26-29, 1.2016
19. \* ローン, N.H. (2016)「ベトナムにおける仏教ソーシャルワークについて」秋元樹(監)、郷堀ヨゼフ(編)『仏教“ソーシャルワーク”と西洋専門職ソーシャルワーク 一次の第一歩』淑徳大学 長谷川仏教文化研究所アジア仏教社会福祉学術交流センター、2016年1

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

月

20. \* Onopas, S. (2016) Buddhist “Social Work” Activities in Thailand. In: Gohori, J. (ed.) Buddhist “Social Work” and Western-rooted Professional Social Work: The next first step. Hasegawa Research Institute for Buddhist Culture, Asian Center for Social Research Exchange, Shukutoku University, pp. 22-25, 1.2016
21. \* オノパス, S. 「タイにおける仏教の「ソーシャルワーク」活動」秋元樹(監)、郷堀ヨゼフ(編)『仏教“ソーシャルワーク”と西洋専門職ソーシャルワーク 一次の第一歩』淑徳大学長谷川仏教文化研究所アジア仏教社会福祉学術交流センター、2016年1月
22. \* Sangpo Sherpa, A.K. (2016) Buddhist Social Welfare in Nepal. In: Gohori, J. (ed.) Buddhist “Social Work” and Western-rooted Professional Social Work: The next first step. Hasegawa Research Institute for Buddhist Culture, Asian Center for Social Research Exchange, Shukutoku University, pp. 15-19, 1.2016
23. \* サンポ・シェルパ, A.K. (2016) 「ネパールにおける仏教社会福祉」秋元樹(監)、郷堀ヨゼフ(編)『仏教“ソーシャルワーク”と西洋専門職ソーシャルワーク 一次の第一歩』淑徳大学長谷川仏教文化研究所アジア仏教社会福祉学術交流センター、2016年1月
24. \* Wickramasinghe, A., Chandana, W.K.A., Akimoto, T. (2016) The Buddhist Monks Involved Social work in Sri Lanka - The Findings of Practice Based Research. In: Gohori, J. (ed.) Buddhist “Social Work” and Western-rooted Professional Social Work: The next first step. Hasegawa Research Institute for Buddhist Culture, Asian Center for Social Research Exchange, Shukutoku University, pp. 37-40, 1.2016
25. \* ウィカラマシングヘ, A.、チャンダナ, W.K. A.、秋元樹 (2016)「ソーシャルワーク活動に携わっているスリランカの僧侶たち —調査報告」秋元樹(監)、郷堀ヨゼフ(編)『仏教“ソーシャルワーク”と西洋専門職ソーシャルワーク 一次の第一歩』淑徳大学長谷川仏教文化研究所アジア仏教社会福祉学術交流センター、2016年1月
26. \* Akimoto, T., Fujioka, T., Matsuo, K. (eds.) Islamic Social Work Practice: Experiences of Muslim Activities in Asia. Hasegawa Research Institute for Buddhist Culture (Shukutoku University), Asian Center for Welfare in Society (Japan College of Social Work), 3.2016 (アジア地域におけるイスラム教ソーシャルワーク実践)
27. 安藤徳明。「東日本大震災における寺院の避難所開設要因の定量的分析」『宗教と社会貢献』6(1) P.1-28."「宗教と社会貢献」研究会. 平成 28 年 4 月
28. \* 『全日本仏教会「災害情報交換会」報告書』発行日 平成 28 年 3 月 31 日 淑徳大学長谷川仏教文化研究所アジア仏教社会福祉学術交流センター(編集責任者:藤森雄介)発行
29. \* 秋元樹(編)『宗教とソーシャルワーク ～仏教の場合～イスラム教の場合～』アジア仏教社会福祉学術交流センター、淑徳大学、2016年9月
30. 安藤徳明。「寺院への避難行動に影響を与える要因の分析—いわき市四倉町海嶽寺での調査から—」『宗教と社会貢献』6(2) P.1-21. 「宗教と社会貢献」研究会. 平成 28 年 10 月
31. \* Akimoto, T., Fujioka, T., Matsuo, K. (eds.) Religion and Social Work: How Does Islamic “Social Work” Operate in Asia? Social Work Research Institute (Japan College of Social Work), Asian Research Institute for International Social Work, Shukutoku Uni., 3.2017(宗教とソーシャルワーク: イスラム“ソーシャルワーク”はどのように行われているのか)
32. \* 松尾加奈 アジアのソーシャルワークにおける宗教の可能性--イスラム教の場合-- 淑徳大学社会福祉研究所紀要 総合福祉研究第 21 号 2017 年 3 月 pp.85-98 2017
33. \* Akimoto, T., Gohori, J., Sakamoto, E. (eds.) How is Asian Buddhism Involved in People’s Life? : Exploring the Buddhist Social Work. Building the Asian Buddhist Social Work Research Network. Asian Research Institute for International Social Work, Shukutoku Uni., 9.2017

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

34. \* Bobby (2017) Parahita: A Model of Buddhist Social Work in Myanmar. In: Akimoto, T., Gohori, J., Sakamoto, E. (eds.) How Is Asian How is Asian Buddhism Involved in People's Life? : Exploring the Buddhist Social Work. Building the Asian Buddhist Social Work Research Network. Asian Research Institute for International Social Work, Shukutoku Uni., pp.12-17, 9.2017
35. \* Bora, Ch. (2017) The Development of Social Work Education in Cambodia. In: Akimoto, T., Gohori, J., Sakamoto, E. (eds.) How Is Asian How is Asian Buddhism Involved in People's Life? : Exploring the Buddhist Social Work. Building the Asian Buddhist Social Work Research Network. Asian Research Institute for International Social Work, Shukutoku Uni., pp.18-21, 9.2017
36. \* Bulgan, T. (2017) Buddhist Social Work in Mongolia. In: Akimoto, T., Gohori, J., Sakamoto, E. (eds.) How Is Asian How is Asian Buddhism Involved in People's Life? : Exploring the Buddhist Social Work. Building the Asian Buddhist Social Work Research Network. Asian Research Institute for International Social Work, Shukutoku Uni., pp.29-30, 9.2017
37. \* Herath, H.M.D.R. (2017) Building of the Working Framework of the Buddhist Social Work: Keynote Speech. In: Akimoto, T., Gohori, J., Sakamoto, E. (eds.) How Is Asian How is Asian Buddhism Involved in People's Life? : Exploring the Buddhist Social Work. Building the Asian Buddhist Social Work Research Network. Asian Research Institute for International Social Work, Shukutoku Uni., pp.62-67, 9.2017
38. \* Hoa, N.T.K. (2017) Buddhism in Vietnam: From Philanthropy to Buddhist Social Work. In: Akimoto, T., Gohori, J., Sakamoto, E. (eds.) How Is Asian How is Asian Buddhism Involved in People's Life? : Exploring the Buddhist Social Work. Building the Asian Buddhist Social Work Research Network. Asian Research Institute for International Social Work, Shukutoku Uni., pp.52-55, 9.2017
39. \* Loan, N.H. (2017) Building of the Working Framework of the Buddhist Social Work: Keynote Address. In: Akimoto, T., Gohori, J., Sakamoto, E. (eds.) How Is Asian How is Asian Buddhism Involved in People's Life? : Exploring the Buddhist Social Work. Building the Asian Buddhist Social Work Research Network. Asian Research Institute for International Social Work, Shukutoku Uni., pp.68-71, 9.2017
40. \* Namdaldagva, O.E. (2017) Characteristics of Buddhist Social Work in Mongolia. In: Akimoto, T., Gohori, J., Sakamoto, E. (eds.) How Is Asian How is Asian Buddhism Involved in People's Life? : Exploring the Buddhist Social Work. Building the Asian Buddhist Social Work Research Network. Asian Research Institute for International Social Work, Shukutoku Uni., pp.31-33, 9.2017
41. \* Onopas, S., Congboonwasana, P.S. (2017) Development of Buddhist Social Work in Thailand. In: Akimoto, T., Gohori, J., Sakamoto, E. (eds.) How Is Asian How is Asian Buddhism Involved in People's Life? : Exploring the Buddhist Social Work. Building the Asian Buddhist Social Work Research Network. Asian Research Institute for International Social Work, Shukutoku Uni., pp.39-44, 9.2017
42. \* Sanesathid, O. (2017) The Current Situation on Buddhist Social Work in Lao PDR. In: Akimoto, T., Gohori, J., Sakamoto, E. (eds.) How Is Asian How is Asian Buddhism Involved in People's Life? : Exploring the Buddhist Social Work. Building the Asian Buddhist Social Work Research Network. Asian Research Institute for International Social Work, Shukutoku Uni., pp.45-48, 9.2017
43. \* Thapa, R.B. (2017) Buddhist Social Work in Nepal. In: Akimoto, T., Gohori, J., Sakamoto, E. (eds.) How Is Asian How is Asian Buddhism Involved in People's Life? : Exploring the Buddhist Social Work. Building the Asian Buddhist Social Work Research Network. Asian Research Institute for International Social Work, Shukutoku Uni., pp.49-51, 9.2017
44. \* Thinley, D. (2017) Development of Buddhist Social Work in Bhutan. In: Akimoto, T.,

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

- Gohori, J., Sakamoto, E. (eds.) How Is Asian How is Asian Buddhism Involved in People's Life? : Exploring the Buddhist Social Work. Building the Asian Buddhist Social Work Research Network. Asian Research Institute for International Social Work, Shukutoku Uni., pp.34-38, 9.2017
45. \* Vichith, K. (2017) Activities Provided by the Buddhist Organization in Cambodia. In: Akimoto, T., Gohori, J., Sakamoto, E. (eds.) How Is Asian How is Asian Buddhism Involved in People's Life? : Exploring the Buddhist Social Work. Building the Asian Buddhist Social Work Research Network. Asian Research Institute for International Social Work, Shukutoku Uni., pp.22-28, 9.2017
  46. \* Wickramasinghe, A. (2017) Building of the Working Framework of the Buddhist Social Work: Keynote Address. In: Akimoto, T., Gohori, J., Sakamoto, E. (eds.) How Is Asian How is Asian Buddhism Involved in People's Life? : Exploring the Buddhist Social Work. Building the Asian Buddhist Social Work Research Network. Asian Research Institute for International Social Work, Shukutoku Uni., pp.72-78, 9.2017
  47. 齊藤 鉄也 テキストマイニングを用いたアンケート分析 -- 仏教系団体による東日本大震災の支援活動の調査 --「生産管理」日本生産管理学会論文誌 Vol.24, No.2, 2017.10 pp.37 - pp.42
  48. \* 秋元樹(監)、佐藤成道、郷堀ヨゼフ(編)『アジアの仏教は人々の生活の問題にどうはたらくか—仏教ソーシャルワークの探求— —アジア仏教ソーシャルワーク研究ネットワークの形成—<学術フォーラム報告書>』淑徳大学 アジア国際社会福祉研究所、2017年11月
  49. \* ボビー(2017)「パラヒタ“Parahita”ミャンマーにおける仏教ソーシャルワークのモデル例」秋元樹(監)、佐藤成道、郷堀ヨゼフ(編)『アジアの仏教は人々の生活の問題にどうはたらくか—仏教ソーシャルワークの探求— —アジア仏教ソーシャルワーク研究ネットワークの形成—<学術フォーラム報告書>』淑徳大学 アジア国際社会福祉研究所、2017年11月
  50. \* チャン・ボラ(2017)「カンボジアにおけるソーシャルワーク教育の進展」秋元樹(監)、佐藤成道、郷堀ヨゼフ(編)『アジアの仏教は人々の生活の問題にどうはたらくか—仏教ソーシャルワークの探求— —アジア仏教ソーシャルワーク研究ネットワークの形成—<学術フォーラム報告書>』淑徳大学 アジア国際社会福祉研究所、2017年11月
  51. \* トウメクウ・ブルガン(2017)「モンゴルでの仏教ソーシャルワーク」. 秋元樹(監)、佐藤成道、郷堀ヨゼフ(編)『アジアの仏教は人々の生活の問題にどうはたらくか—仏教ソーシャルワークの探求— —アジア仏教ソーシャルワーク研究ネットワークの形成—<学術フォーラム報告書>』淑徳大学 アジア国際社会福祉研究所、2017年11月
  52. \* H.M.D.R.ヘラ(2017)「アジアの仏教は、人々の生活にどう関わっているのか」. 秋元樹(監)、佐藤成道、郷堀ヨゼフ(編)『アジアの仏教は人々の生活の問題にどうはたらくか—仏教ソーシャルワークの探求— —アジア仏教ソーシャルワーク研究ネットワークの形成—<学術フォーラム報告書>』淑徳大学 アジア国際社会福祉研究所、2017年11月
  53. \* グエン・ティ・キム・ホア、グエン・ティ・タイ・ラン(2017)「ベトナムにおける仏教ソーシャルワークの現状」. 秋元樹(監)、佐藤成道、郷堀ヨゼフ(編)『アジアの仏教は人々の生活の問題にどうはたらくか—仏教ソーシャルワークの探求— —アジア仏教ソーシャルワーク研究ネットワークの形成—<学術フォーラム報告書>』淑徳大学 アジア国際社会福祉研究所、2017年11月
  54. \* グエン・ホイ・ロアン(2017)「ベトナムの仏教—慈善から仏教ソーシャルワークへ—」. 秋元樹(監)、佐藤成道、郷堀ヨゼフ(編)『アジアの仏教は人々の生活の問題にどうはたらくか—仏教ソーシャルワークの探求— —アジア仏教ソーシャルワーク研究ネットワークの形成—<学術フォーラム報告書>』淑徳大学 アジア国際社会福祉研究所、2017年11月

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

55. \* オユト・エルデネ ナムダルダグヴァ(2017)「モンゴルの仏教ソーシャルワークの特徴」. 秋元樹(監)、佐藤成道、郷堀ヨゼフ(編)『アジアの仏教は人々の生活の問題にどうはたらくか—仏教ソーシャルワークの探求— —アジア仏教ソーシャルワーク研究ネットワークの形成—<学術フォーラム報告書>』淑徳大学 アジア国際社会福祉研究所、2017年11月
56. \* ソパ・オノパス、ファラマハ・スライ・コンブーンワサナ(2017)「タイにおける仏教ソーシャルワークの発展」. 秋元樹(監)、佐藤成道、郷堀ヨゼフ(編)『アジアの仏教は人々の生活の問題にどうはたらくか—仏教ソーシャルワークの探求— —アジア仏教ソーシャルワーク研究ネットワークの形成—<学術フォーラム報告書>』淑徳大学 アジア国際社会福祉研究所、2017年11月
57. \* オウトムフォン・サネサシッド(2017)「ラオスにおける仏教ソーシャルワークの現状」. 秋元樹(監)、佐藤成道、郷堀ヨゼフ(編)『アジアの仏教は人々の生活の問題にどうはたらくか—仏教ソーシャルワークの探求— —アジア仏教ソーシャルワーク研究ネットワークの形成—<学術フォーラム報告書>』淑徳大学 アジア国際社会福祉研究所、2017年11月
58. \* ラジェンドラ・タパ(2017)「ネパール社会における仏教ソーシャルワーク」. 秋元樹(監)、佐藤成道、郷堀ヨゼフ(編)『アジアの仏教は人々の生活の問題にどうはたらくか—仏教ソーシャルワークの探求— —アジア仏教ソーシャルワーク研究ネットワークの形成—<学術フォーラム報告書>』淑徳大学 アジア国際社会福祉研究所、2017年11月
59. \* ドルジ・ティンレイ(2017)「ブータンでの仏教ソーシャルワーク—代表的なケース」. 秋元樹(監)、佐藤成道、郷堀ヨゼフ(編)『アジアの仏教は人々の生活の問題にどうはたらくか—仏教ソーシャルワークの探求— —アジア仏教ソーシャルワーク研究ネットワークの形成—<学術フォーラム報告書>』淑徳大学 アジア国際社会福祉研究所、2017年11月
60. \* ケオ・ヴィチット(2017)「カンボジアにおける仏教ソーシャルワークの現状」. 秋元樹(監)、佐藤成道、郷堀ヨゼフ(編)『アジアの仏教は人々の生活の問題にどうはたらくか—仏教ソーシャルワークの探求— —アジア仏教ソーシャルワーク研究ネットワークの形成—<学術フォーラム報告書>』淑徳大学 アジア国際社会福祉研究所、2017年11月
61. \* アヌラダ・ウィクラマシンゲ(2017)「グリーンソーシャルワークに焦点を当てた仏教ソーシャルワーク」. 秋元樹(監)、佐藤成道、郷堀ヨゼフ(編)『アジアの仏教は人々の生活の問題にどうはたらくか—仏教ソーシャルワークの探求— —アジア仏教ソーシャルワーク研究ネットワークの形成—<学術フォーラム報告書>』淑徳大学 アジア国際社会福祉研究所、2017年11月
62. 谷山洋三、得丸定子、奥井一幾、今井洋介、森田敬史、郷堀ヨゼフ、ベッカー、C.、高橋、鈴木岩弓(2019)「経文聴取により悲嘆は緩和されるのか? —心理尺度と生化学指標による実証—」.『仏教看護・ビハーラ学会』. (13) pp.100-116.日本仏教看護・ビハーラ学会.(共著).2019年
63. Taniyama, Y., Becker, C., Takahashi,H., Tokumaru,S., Suzuki, I., Okui,K., Gohori, J., Imai, Y., Morita,T.( 2019). Listening to Sutra-Chanting Reduces Bereavement Stress in Japan Journal of Health Care Chaplaincy. Taylor & Francis. <https://doi.org/10.1080/08854726.2019.1653637> . DOI: 10.1080/08854726.2019.1653637 (共著).2019年
64. 郷堀ヨゼフ、西尾孝司 (2018).「実存・未来・福祉-中山間村落における地域福祉に関する一考察-」.『総合福祉研究』. (22) pp.169-182. 淑徳大学.平成30年
65. 藤森雄介.「浄土系」.長谷川匡俊編『現代日本における仏教社会福祉事業の歩み(2001

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

- ～2010年)』pp.89-95.長谷川仏教文化研究所.平成30年
66. 郷堀ヨゼフ. (2018). 「移住労働者へのソーシャルワークの視点」.『淑徳大学社会福祉研究』. (24・25) pp.11-14. 淑徳大学社会福祉学会.平成 30 年
67. 熊澤利和、森田稔、郷堀ヨゼフ(2018). 「宗教性が医療者の職業上の満足度・達成度や感情労働に及ぼす影響分析」.『高崎経済大学ディスカッションペーパー』. 高崎経済大学地域政策学会.(Published online: <http://www1.tcue.ac.jp/home1/c-gakkai/dp/dp18-01> ).平成 30 年
68. Akimoto, T., Nguyen, Hoi Loan, Nguyen Huong, Herath, H., Oyut, E., Adilbish, B., Ives, N., Matsuo, K., Fujimori, Y., et al. (2020). The Journey of Buddhist Social Work: Exploring the Potential of Buddhism in Asian Social Work. ARIISW, Shukutoku. (共編著)〈学術フォーラム報告書〉』淑徳大学 アジア国際社会福祉研究所、平成 30 年 12 月
69. 松尾加奈「インドネシア・ジャカルタ地域の貧困地域における「子どもの貧困」支援調査」(藤岡孝志、平田美智子、木村真理子、森恭子、松尾加奈、Do Van Trai, Machiko Ohara, Megumi Kaneko, Nguyen ThiThai Lan、永野咲、木村容子共著)、『平成 29 年度日本社会事業大学社会事業研究所共同研究—国際共同研究事業—56-69 頁(日本社会事業大学社会事業研究所) 平成 30 年 3 月
70. 松尾加奈「マレーシア「子どもの貧困」支援者へのインタビュー調査」◎藤岡孝志、平田美智子、木村真理子、森恭子、松尾加奈、Do Van Trai, Machiko Ohara, Megumi Kaneko, Nguyen ThiThai Lan、永野咲、木村容子共著、『平成 29 年度日本社会事業大学社会事業研究所共同研究—国際共同研究事業—70-79 頁(日本社会事業大学社会事業研究所) 平成 30 年 3 月
71. 松尾加奈「ソーシャルワークから国際理解教育へのアプローチ((論説))」『共生科学』(9) ([https://doi.org/10.32137/kyosei.9.9\\_88](https://doi.org/10.32137/kyosei.9.9_88)),88-96 頁、日本共生科学会、平成 30 年 6 月
72. Fujimori, Y. & Matsuo, K. "How Is ""Buddhist Social Work"" Taught in the Japanese Certified Social Welfare Curriculum?". Working Definition and Current Curricula of Buddhist Social Workpp.25-29(Faculty of Sociology VNU University of Social Sciences & Humanities Hanoi, Vietnam & ARIISW)" "Based on the presentation of the Hanoi International Expert Meeting (5-6 December 2017). 平成 30 年 9 月
73. Matsuo, K. "Discussion and Comments from the Floor". "What Should Curriculums for International Social Work Education Be? pp.70-73(ARIISW-Shukutoku University)". 平成 31 年 3 月
74. 安藤徳明. 「タイの仏教寺院における社会福祉活動の実態に関する定量的検証—チェンマイ県の寺院に対する質問紙調査から—」.『龍谷大学アジア仏教文化研究センター 2018 年度研究報告書』. P.127-145. 龍谷大学アジア仏教文化研究センター. 平成 31(2019)年 3 月
75. H.M.D.R.ヘラ著「スリランカにおけるグリーンソーシャルワークの理論と実践」『ソーシャルワーク研究』45(2) 31-41 頁、相川書房、令和元(2019)年 7 月
76. Matsuo, K. "Social Work" and Religion in Asia: The Evolution of International Social Work(2020). ""Social Work"" and Religion in Asia-The Case of Muslim- For the Evolution of ISWpp.5-11(ARIISW-Shukutoku University)". 令和 2(2020)年

<図書>

1. \* Gohori (ed.) From Western-rooted Professional Social Work to Buddhist Social Work. Research Series “Exploring Buddhist Social Work” No.0, ARIISW –

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

- Gakubunsha, Tokyo: 2017
2. \*Hoi Loan (ed.) Vietnam Buddhism: From Charity to Buddhist Social Work. Research Series “Exploring Buddhist Social Work” No.2, ARIISW – Gakubunsha, Tokyo: 2017
  3. \*Gohori, Ogawa (eds.) Growth of the Buddhist Social Work Activities in Mongolia. Series “Exploring Buddhist Social Work” No.1, ARIISW – Gakubunsha, Tokyo: 2017
  4. \*郷堀(編)『西洋生まれ専門職ソーシャルワークから仏教ソーシャルワークへ』研究シリーズ「仏教ソーシャルワークの探求 0号」淑徳大学アジア国際社会福祉研究所・学文社、2018年
  5. \*Demberel, Altaibaatar, Erdene, Ogawa, Gohori (eds.) Growth of the Buddhist Social Work Activities in Mongolia. Series “Exploring Buddhist Social Work” No.1, ARIISW - Mongolia National University, Ulaanbaatar 2018 ※ モンゴル語
  6. Inagaki, M., Kikuchi, K.Gohori, J. (eds.) Towards New Horizon: Beyond the Buddhist Social Work. Gakubunsha, Tokyo: 2020
  7. 郷堀(著)「国境及び文化と文化の境界からみえるソーシャルワーク」。岡、原島、秋元(編)『世界の社会福祉: 12巻 国際社会福祉. 旬報社、東京(日本) 2020年
  8. 松尾加奈. 国際ソーシャルワーク学校連盟 (IASSW) 国際ソーシャルワーカー連盟 (IFSW) 国際社会福祉協議会 (ICSW) 岡伸一、原島博(編著) "新世界の社会福祉 12(旬報社). pp.203-218. 令和 2(2020)年
  9. Nguyen Hoi Loan, Nguyen Thi Thai Lan, Bui Thanh Minh, Nguyen Huu Quan , Nguyen Thu Trang, Luong Bich Thuy. (Kikuchi,Y., Gohori,J.) 『ベトナムの仏教～チャリティから仏教ソーシャルワークへ』学文社、2019年
  10. Gohori, J. On religion and social work. In Tran Nhan Tong Institute (Eds) Social assistance activities of contemporary Buddhism. pp.107-114. Vietnam National University Press. Hanoi, Vietnam. 2019
  11. Hiroaki Ogawa, Josef Gohori (eds.); Oyut-Erdene, Adilbish, Demberel, Altaigar, Bulgan, Ogawa, Gohori, Growth of the Buddhist Social Work Activities in Mongolia. Gakubunsha, Tokyo:2018.
  12. 郷堀ヨゼフ、秋元樹、ヘラ H.M.D.R.、石川到覚、ホイ・ロアン、ソパ・オノパス、カルマ・サングボ(2018)『西洋生まれソーシャルワークから仏教ソーシャルワークへ』学文社
  13. 郷堀ヨゼフ、小川博昭.(編・翻訳・共著), Demberel, S., Oyut Erdene, Altaibaatal, J., other. 『モンゴルにおける仏教ソーシャルワークの誕生と成長』.学文社、2018年
  14. Gohori, J. (2019) . Introduction: Joint Research Project on Buddhist Social Work Buddhist Social Work in Asia: Something What Japan Has Forgotten Shukutoku University, Ryukoku University.<学術フォーラム報告書(プロシーディング)> Proceeding of the Joint Symposium by Socio – Cultural Research Institute at Ryukoku University and Asian Research Institute for International Social Work at Shukutoku University. pp.10-15.
  15. Akimoto, T. (ed). Buddhist Social Work in Sri Lanka: Past and Present. ARIISW - Gakubunsha. Tokyo, Japan、2020年
  16. 秋元樹、服部麻希(編)「国際ソーシャルワーク教育のカリキュラムはいかにあるべきか”(平成 31 年 3 月、淑徳大学アジア国際社会福祉研究所)" "2018 年 1 月に開催した第 3 回淑徳大学国際学術フォーラム報告書
  17. Matsuo, K. Akimoto, A. Round-table Discussion on the Future of the IASSW: What the IASSW Expects from Japanese Members and What Japanese Members Expect from the IASSW Proceedings January 10, 2019.

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

ARIISW-Shukutoku University 令和 2 年 3 月

18. Matsuo, K. JSPS KAKEN Research Project: "'Social Work'" and Religion in Asia -The Case of Muslim- For the Evolution of International Social Work" (ARIISW-Shukutoku University)"
19. 藤森雄介・渡邊義昭編著『東日本大震災を契機とした、地域社会・社会福祉協議会と宗教施設(仏教寺院・神社等)との連携に関するアンケート調査』、淑徳大学藤森雄介研究室、2020 年 3 月
20. Ando, N. (2019) Social Welfare Activities in Thai Buddhist Temples: A Quantitative Survey in the Chiang Mai Province. Buddhist Social Work: Roots and Development of the Social Welfare System in Thailand. Gakubunsha. 平成 31 年 3 月
21. Ando, N. (2019). Factors Influencing Thai Buddhist Temples' Social Welfare Activities. Buddhist Social Work: Roots and Development of the Social Welfare System in Thailand. Gakubunsha. 平成 31 年 3 月
22. 安藤徳明. 「タイの仏教寺院による社会福祉活動の実態ーチェンマイ県における定量的調査からー」. 『タイにおける社会福祉の起源と発展』. 学文社. 令和 2 年 3 月
23. 安藤徳明. 「タイの仏教寺院による社会福祉活動に影響を与える要因の検討」. 『タイにおける社会福祉の起源と発展』. 学文社 令和 2 年 3 月

#### <学会発表>

1. 安藤徳明. 「東日本大震災における寺院の避難所開設要因の分析」日本仏教社会福祉学会 第 50 回大会(平成 27 年 10 月)での口頭発表
2. 安藤徳明. 「東日本大震災における寺院の避難所開設要因の定量的分析」2015 年度第 2 回「宗教と社会貢献」研究会(平成 27 年 12 月)での口頭発表
3. \*菊池 結 「災害時に備えての仏僧のためのソーシャルワーク情報共有システム」報告 ソーシャルワーク教育社会開発世界会議(韓国ソウル、国際ソーシャルワーク学校連盟(IASSW)・国際ソーシャルワーカー連盟(IFSW)・国際社会福祉協議会(ICSW)主催、2016 年 6 月 27-30 日)。
4. Gohori, J. (2016) Looking for Buddhist "social work": New Perspectives of Social Work based on Buddhist Principles and Practice. In: ASEAN Economic Community International Buddhist Conference on "Buddhist Harmony in AEC: Regional and World Peace". July 24 2016, Phnom Penh, Cambodia
5. Gohori, J. (2016) NEW PERSPECTIVES OF SOCIAL WORK IN ASIA – on the cultural background of social work. In: FIRST ASIA PACIFIC SUMMIT OF SOCIAL WORKERS, 5-8 October 2016, Vladivostok, Island Russki, Far East Federal University, Russia
6. \*松尾加奈 「ムスリムによる“ソーシャルワーク”はどのように行われているのかーの知から学ぶー(How does "Social Work" Activities Operated by Muslim in Asia - Learning from the Indigenous Knowledge -)」, 「2017 年ソーシャルワーク・教育・社会開発アフリカ合同会議(Africa Joint Conference Social Work, Education and Social Development 2017 “Embracing Evidence-Based Practice for Environmental Protection and Sustainable Development”)」(平成 29 年 6 月 25-28 日、ザンビア・リビングストーン)分科会口頭発表
7. 渡邊義昭, 「東日本大震災を契機とした、地域社会・社会福祉協議会と宗教施設(仏教寺院・神社等)との連携に関するアンケート調査 中間報告 1」9月 10 日、日本仏教社会福祉学会第 52 回大会研究発表(共同研究者、淑徳大学・藤森雄介、大正大学・鷺見宗信、浄土宗総合研究所・宮坂直樹、宮城県女川町社会福祉協議会・須田めぐみ、全日本仏教青年会・中村悟眞)。
8. 藤森雄介, 「東日本大震災を契機とした、地域社会・社会福祉協議会と宗教施設(仏教寺院・神社等)との連携に関するアンケート調査 中間報告 2」9月 10 日、日本仏教社会福



法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

祉学会第 52 回大会研究発表(共同研究者、淑徳大学・渡邊義昭、大正大学・鷺見宗信、浄土宗総合研究所・宮坂直樹、宮城県女川町社会福祉協議会・須田めぐみ、全日本仏教青年会・中村悟眞)。

9. \*郷堀ヨゼフ 「ソーシャルワークの文化的背景(Cultural Background of Social Work: Exploring the Buddhist Social Work)」 「第 24 回アジア太平洋地域ソーシャルワーク合同会議(2017 Asia-Pacific Joint Regional Social Work Conference: Challenges and Responsibilities: Innovative Social Work and Sustainable Development)」(平成 29 年 9 月 26～29 日、中国・深圳)での分科会口頭発表
10. \*松尾加奈「”ソーシャルワーク”とアジアの宗教(“Social Work” and Religion in Asia)」、 「第 24 回アジア太平洋地域ソーシャルワーク合同会議(2017 Asia-Pacific Joint Regional Social Work Conference: Challenges and Responsibilities: Innovative Social Work and Sustainable Development)」(平成 29 年 9 月 26～29 日、中国・深圳)での分科会口頭発表
11. \*藤森雄介、松尾加奈、「日本の社会福祉カリキュラムで”仏教ソーシャルワーク“は以下に教えられているか？(How Is “Buddhist Social Work” Taught in the Japanese Certified Social Welfare Curriculum?)」、 「”仏教ソーシャルワーク“国際専門家会議」(平成 29 年 12 月 5～6 日、ベトナム・ハノイ)での口頭発表
12. 安藤徳明、「タイの仏教寺院における社会福祉機能の実態」龍谷大学仏教文化セミナー「東南アジアと日本の仏教交流(2)」(平成 30 年 2 月)での口頭発表
13. 郷堀ヨゼフ、藤森雄介「仏教ソーシャルワークの探求」日本仏教看護・ビハラー学会第 14 回年次大会(2018年8月26日 奈良県)での口頭発表
14. Wake, J. Ohwa, M. Vrag, V. & Matsuo, K. "The Working Definition on the Buddhist Social Work: the new perspective of the social work research from Asia (Workshop at the Tampere University(Tampere, Finland), 2019 年 9 月)
15. 渡邊義昭、藤森雄介「東日本大震災を契機とした、寺院の社会的活動について～岩手県釜石市で開催されている韋駄天競走における地域連携の事例から～」、日本仏教社会福祉学会第 54 回学術大会(2019 年 9 月 11 日、東京都、浅草寺福祉会館)での口頭発表。
16. 安藤徳明、「タイにおける仏教の福祉的役割ーチェンマイ県での定量調査に基づくー考察ー」日本仏教社会福祉学会第 53 回大会(平成 30 年 9 月)での口頭発表
17. 藤森雄介「東日本大震災被災地から窺える地域における寺院・僧侶への期待」、日本宗教学会第 77 回学術大会(2018 年 9 月 9 日、京都、大谷大学)、パネル「宗教施設を地域資源とした地域防災のアクションリサーチ」(稲場圭信大阪大学大学院教授代表)の発題者の一人として研究成果の一部を登壇報告。
18. 藤森雄介「東日本大震災関連調査から窺える地域社会における寺院、僧侶の在り方」平成 30 年度浄土宗総合学術大会(2018 年度 9 月 14 日、京都、佛教大学)にて、口頭発表。
19. 渡邊義昭、藤森雄介、宮坂直樹、鷺見宗信、須田めぐみ、中村悟眞「社会福祉協議会と「宗教系ボランティア団体・宗教施設」との連携について～東日本大震災を契機とした、地域社会・社会福祉協議会と宗教施設(仏教施設・神社等)との連携に関するアンケート調査～」第 53 回日本仏教社会福祉学会(2018 年 9 月 30 日 山梨県身延山)にて、口頭発表。
20. 郷堀ヨゼフ、藤森雄介、秋元樹、松尾加奈 「アジア地域における仏教の役割について」第 53 回日本仏教社会福祉学会(2018 年 9 月 30 日 山梨県身延山)での口頭発表
21. Gohori, J. Introduction of International Joint Research Project on Buddhist Social Work Development of the Asian Buddhist Social Work Activities (2018 年 9 月 22 日モンゴル・ウランバートル National University of Mongolia)での口頭発表

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

22. 黒木保博、阪口春彦、陳礼美、和気純子、松尾加奈、「ソーシャルワーク教育・実践に「国際」の視点をいかに組み込むか—全米組織における「国際」の位置づけから学ぶ—」第 48 回全国社会福祉教育セミナー 第 1 分科会「地球を意識するソーシャルワーク教育」(平成 30(2018)年 10 月、駒澤大学駒澤キャンパス口頭発表)
23. Gohori, J.. On Religion and Social Work. The Cultural and Philosophical Uniqueness of Tran Nhan Tong and Truc Lam Buddhist Sect. Vietnam National University. (2018 年 12 月 6 日ベトナム・Quang Ninh)での口頭発表
24. 郷堀ヨゼフ「日本人にとって幸せな死とは」日本死の臨床研究会第 42 年次大会(新潟)回 (2018 年 12 月 8 日 新潟県)での口頭発表
25. Gohori, J.. "On Buddhist Social Work Joint Research Buddhist Social Work in Asia. Ryukoku University & Shukutoku University Joint Symposium(2018 年 12 月 23 日 京都府)での口頭発表
26. Gohori, J.. Introduction Objectives of the Workshop". Buddhist Social Work Workshop ISWEBM, Sri Lanka, and ARIIW, Japan. (2019 年 2 月 19 日、スリランカ・キャンディ開催)での冒頭趣旨説明
27. Gohori, J. Journey We've Traveled: From the ABC Model to the Definition of Buddhist Social Work and Beyond. 4th International Academic Forum on Buddhist Social Work. ARIISW-Shukutoku University. Tokyo, Japan. 2019 年 12 月 20 日での趣旨説明
28. Gohori, J. Re-thinking Social Work in the Asian Context. 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所専門家会議「宗教とソーシャルワーク(Expert Meeting on Social Work Education and Spirituality)」(2019 年 12 月 7 日東京開催)での口頭発表
29. Gohori, J., Akimoto, T., Fujimori, Y., Matsuo, K. Exploring Buddhist Social Work「第 67 回日本社会福祉学会(2019 年 9 月 21 日大分県)」での口頭発表
30. Akimoto, T., Gohori, J., Fujimori, Y., Matsuo, K.. Exploring Buddhist Social Work: Outline of the Joint Research Project International Conference on Emerging Social Work Practices and Education, Royal University of Bhutan, Samtse, Bhutan 2019 年 5 月 3 日

#### <研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等ホームページで公開している場合には、URL を記載してください。

##### <既に実施しているもの>

- ホームページ公開(H29 年 3 月～) URL : <http://bukkyoplatform.com>
  - シンポジウム
1. 国際フォーラム開催 『仏教“ソーシャルワーク”と西洋専門職ソーシャルワーク～次の第一歩～』と題して、淑徳大学にて実施 平成 27 年 10 月 9・10 日。
  2. 「災害支援情報交換会」(全日本仏教会主催、平成 27 年 11 月 27 日、明照会館 4 階第 1 会議室)、講師務として、「仏教プラットフォーム」を説明
  3. 菊池 結「災害時に備えての仏僧のためのソーシャルワーク情報共有システム」報告 ソーシャルワーク教育社会開発世界会議(韓国ソウル、国際ソーシャルワーク学校連盟(IASSW)・国際ソーシャルワーカー連盟(IFSW)・国際社会福祉協議会(ICSW)主催、2016 年 6 月 27-30 日)。
  4. Gohori, J. (2016) ASEAN Economic Community International Buddhist Conference on “Buddhist Harmony in AEC: Regional and World Peace”. Domestic and international audience of about 500-600 participants from the 10 ASEAN countries and Europe. July 24 2016, Phnom Penh, Cambodia.
  5. 郷堀 ヨゼフ「ソーシャルワークワークの文化的・宗教的背景について)関するレクチャーを行った ASEAN 経済共同体(AEC)主催の国際会議「Buddhist Harmony in AEC:

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

Regional and World Peace」(カンボジア・プノンペン)2016年7月24日。」

6. 国際社会開発コンソーシアム(international Consortium for Social Development; ICSD)アジア太平洋支部及びペラデニヤ大学による国連 SDGs に関する国際会談スリランカ・ペラデニヤ大学)への出席、セッション議長(秋元所長)平成28年9月29-30日、
  7. 郷堀 ヨゼフ「仏教ソーシャルワークの探求」に関する報告 ロシア・ウラジオストックの極東連邦大学(The Far Eastern Federal University)にて開催された「アジア太平洋ソーシャルワーカー・サミット」Asia Pacific Summit of Social Workers」2016年10月5-8日。
  8. 日本社会事業大学主催の環太平洋社会福祉セミナー(東京の第1セッション「宗教とソーシャルワーク:イスラム“ソーシャルワークはどのように行われているのか」について共催平成28年12月10日
  9. 秋元・藤森・郷堀・松尾 第25回環太平洋社会福祉セミナー「グローバル社会におけるアジア地域のソーシャルワークを構築する:第1セッション「宗教とソーシャルワーク:イスラム”ソーシャルワーク”はどのように行われているのか」(平成28年12月10日)コーディネーター(松尾)及びディスカッション
  10. アジア仏教主要国を招いての第2回国際学術フォーラムを主催 平成29年3月22-23日
  11. スリランカとの共同研究 PBR の最終報告会議「フォーラム・プラス」を本研究所にて開催 平成29年3月24日、
  12. Gohori, J. (2018) Cultural Background of Social Work: Exploring the Buddhist Social Work. In: International Conference on Social Work and Sustainable Social Development, January 3-6, 2018: Sylhet, Bangladesh バングラデシュ、シルヘット市で開催されたソーシャルワーク及び持続可能開発に関する国際カンファレンスにスピーカーとして出席。2018年1月。
- 講演会
1. 郷堀ヨゼフ「映画『ラッキー』～生と死について」シネマレクチャー(高田世界館、新潟県上越市。2018年7月)
  2. 郷堀ヨゼフ「芸術を通して生と死を眺める」講演、(光徳寺、新潟県上越市。2018年8月)
  3. 郷堀ヨゼフ「日本的の死生観」正徳寺(新潟県寺泊市。2018年10月)
  4. 郷堀ヨゼフ「アドバンスケアプランニングにおける世界の動向」5th Niigata Oncology Communication Meeting. 共和麒麟主催(新潟県新潟市。2018年12月)
  5. 郷堀ヨゼフ「人間関係構造の仏教ルーツ」浄土真宗高田教区年次大会(新潟県柿崎2019年6月)
  6. 郷堀ヨゼフ「翻訳・通訳について」ワークショップ。上越国際交流公開(新潟県上越市。2019年9月 ワークショップ講師)。
  7. 松尾加奈「東京都教育委員会オリンピックパラリンピック教育出前授業:私たちにもできる国際交流ってなんですか?」(令和2年1月、羽村市立武蔵野小学校(東京都羽村市))

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

14 その他の研究成果等

--

法人番号	131044
プロジェクト番号	S1591002L

## 15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

## &lt;「選定時」に付された留意事項&gt;

大学の個性を生かした研究テーマであるが、多数の国を対象に比較研究を行うことの意味がやや読み取りにくい。方法論を精緻化することが望まれる。

## &lt;「選定時」に付された留意事項への対応&gt;

ご指摘頂いた留意事項を踏まえ、単なる比較研究ではなく、①各国の研究者、実践者に対して研究の趣旨をご理解頂いた上で対等な共同研究者として信頼関係を作り、②各国の研究者も主体的に調査研究に取り組むことを行い、③その成果については本研究に参加する全ての国々に共有することを目指して研究を進めてきた。その結果、2年目の平成28年度開催の国際学術フォーラムでは各国から参加者と、仏教ソーシャルワークの概念化に向けた踏み込んだ議論を行うことが出来、日本を超えて諸外国と結ぶ研究基盤(研究ネットワーク)の形成に向けての大きな一歩を踏み出すことが出来ている。

## &lt;「中間評価時」に付された留意事項&gt;

特になし

## &lt;「中間評価時」に付された留意事項への対応&gt;

特になし

法人番号	131033
プロジェクト番号	S1591002L

16

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他( )	
平成27年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	26,153	13,586	12,567				
平成28年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	28,750	16,317	12,433				
平成29年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	29,980	17,241	12,739				
平成30年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	30,016	16,141	13,875				
平成31年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	30,209	15,526	14,683				
総額	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	0	0	0	0	0	0	0
	研究費	145,108	78,811	66,297	0	0	0	0
総計	145,108	78,811	66,297	0	0	0	0	

法人番号

131033

17

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

\_\_\_\_\_ m<sup>2</sup>

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型 番	台 数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
				h			
				h			
				h			
(研究設備)				h			
				h			
				h			
				h			
(情報処理関係設備)				h			
				h			
				h			
				h			

## 18 研究費の支出状況

(千円)

年 度	平成 27 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消耗品費	2,236	パソコン周辺機器・文具	2,236	HDD、メモリ、文房具、カメラ、研究用資料
光熱水費	0		0	
通信運搬費	745	郵便費、運搬費、通信費	745	資料送付代、イベント案内送付
印刷製本費	2,814	成果報告、案内状作成	2,814	報告書作成、チラシ印刷
旅費交通費	4,981	研究調査旅費	4,981	国内外研究出張旅費
報酬・委託料	12,540	業務・作業委託	12,540	通訳、翻訳、テープ起し、校正費、派遣費、委託費
(上記外の費用)	1,151	賃貸、会費、会議費	1,151	レンタカー、室料、昼食代
計	24,467		24,467	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	0		0	
教育研究経費支出 計	0		0	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品 図 書	1,677	研究用機器	1,677	パソコン、プリンター、パソコンソフト
計	1,677		1,677	
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費 計	0			

年 度	平成 28 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消耗品費	4,409	パソコン周辺機器・文具	4,409	メモリ、文房具、研究用資料
光熱水費	0		0	
通信運搬費	272	郵便費、運搬費、通信費	272	資料送付代、イベント案内送付
印刷製本費	595	成果報告、案内状作成費	595	報告書作成、チラシ印刷
旅費交通費	9,411	研究調査旅費	9,411	旅費、宿泊費、弁当
報酬・委託料	7,689	業務・作業委託	7,689	通訳、翻訳、テープ起し、校閲費、派遣費、委託費
(上記外の費用)	4,474	賃貸、会費、会議費	4,474	室料、昼食代、同時通訳
計	26,850		26,850	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	1,164	事務補助	1,164	時給 890円, 年間時間数 1022時間 実人数 1人
教育研究経費支出 計	1,164		1,164	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品 図 書	731	研究用機器	731	パソコン
計	731		731	
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費 計	0			



法人番号	131033
------	--------

年 度	平成 29 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	2,583	パソコン周辺機器、文具	2,583
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	90	郵便費、運搬費、通信費	90
印 刷 製 本 費	1,608	英和文報告書印刷製本	1,608
旅 費 交 通 費	5,687	研究調査旅費	5,687
報 酬・委 託 料	18,318	構築委託・叢書制作・事務委託	18,318
(上記外の費用)	312	賃貸、会費、会議費	312
計	28,598		28,598
ア ル パ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	1,019		1,019
教育研究経費支出			
計	1,019		1,019
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	1,376	パソコン周辺機器、研究用機器	1,376
図 書			
計	1,376		1,376
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター			
研究支援推進経費			
計	0		

年 度	平成 30 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	1,098		1,098
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	257		257
印 刷 製 本 費	405		405
旅 費 交 通 費	8,768		8,768
報 酬・委 託 料	17,813		17,813
(上記外の費用)	173		173
計	28,514		28,514
ア ル パ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	1,221		1,221
教育研究経費支出			
計	1,221		1,221
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	281		281
図 書			
計	281		281
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター			
研究支援推進経費			
計	0		

法人番号

131033

年 度	令和元(平成31)年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	808		808
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	151		151
印 刷 製 本 費	2,127		2,127
旅 費 交 通 費	6,525		6,525
報 酬・委 託 料	19,006		19,006
(上 記 外 の 費 用)	292		292
計	28,909		28,909
ア ル パ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼 務 職 員)	1,131		1,131
教育 研究 経 費 支 出			
計	1,131		1,131
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育 研究 用 機 器 備 品	169		169
図 書			
計	169		169
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント			
ポスト・ドクター			
研究 支 援 推 進 経 費			
計	0		